

## 第 6 学 年 道 徳 学 習 指 導 案

- 1 主 題 名 信念はつらぬいて（ 1 - (2) 希望，勇気，不撓不屈）
- 2 資 料 名 「龍門司焼はなくさない」（学研鹿児島県版「みんなのどうとく」）  
出典 鹿児島県小学校道徳資料研究会
- 3 ね ら い 目標実現のために，困難や失敗にくじけず，希望を持って粘り強くやりぬこうとする態度を育てる。

### 4 主題について

#### (1) 価値について

「楽な生活をしたい」「困難なことは避けてとりたい」といった気持ちは誰もがもつものである。しかし、「少しでもよくなる」「向上しよう」と思えば，そこには大なり小なり困難や障害が横たわっている。それを打ち破ってこそ，初めて目標が達成されるのであり，自分の希望が生かされるのである。この意義を十分児童に理解させたい。

#### (2) 児童の実態

この期の子供たちは，物事を最後までやり通すことの大切さについては理解している。しかし，一つのことを熱中しても最後まで辛抱強くやり遂げられず，途中で投げ出すことも少なくない。これらの児童に本時のねらいを指導することは大切である。



#### (3) 資料について

本資料は，60年間，ろくろを回し続け，幾多の困難にもめげず，加治木町にある龍門司焼の伝統を守った陶工川原軍次の実話をもとに書かれている。川原軍次は，龍門司焼の復活に尽力され，昭和 39 年に県無形文化財技術保持者に指定された。困難にぶち当たりながらも龍門司焼をなくしたくないという気持ちと努力に気づかせ，本資料の意味するところを十分理解させたい。

板書計画

八十三歳


「やったあ  
今までやっていたのが  
あつた  
やっと完成した  
よかった」

難

い

龍門司焼をなくさない



「お父さん、わたしはやめませんよ、龍門司焼の火をたぎしてたまるもんですか」

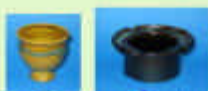
父のあとを受け継ぐ、  
中途半端で終わらせたくない。  
龍門司焼をここでやめさせ（逆絶えさせ）たくない。  
（焼き物）龍門司焼を、こよなん賣っていた。

目標を立てたことも、最後までやり続けるためには、どんな気持ちをもつことが大切だろう。

「やめたくない  
めんどう  
時間がない  
〇〇がしたい  
〇〇がわくわく」

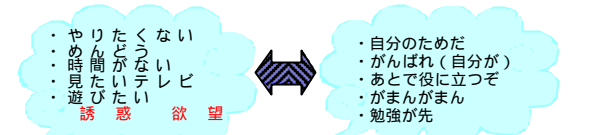

↑ ↓

じぶんのためた  
がんばれ「自分」が  
あとで役に立つぞ  
がまん



実物提示

5 展開例

| 過程   | 主な学習活動  | 発問の工夫   | 具体的な発問や子どもの反応等（留意点）  |
|------|---|---|--|
| 導入   | <p>1 より高い目標に向かって努力したことや、今後努力してみたいことについて発表する。</p> <p>2 最後までやり遂げられなかった生活経験とその理由を想起する。<br/>やり遂げられなかった経験とその理由<br/>やり遂げた経験とその理由等<br/>あこがれとの矛盾や相反する経験との矛盾等から生じた追究したい問題点</p>   | <p>日常よりよい生き方をめざしていることを認めたと、もっと努力したいこととして意識させる。</p> <p>問題点の感じ方は、主題や個によって異なるため、気持ちの矛盾を感じた観点やその気持ちを自由に想起させ問題意識を高める。<br/>やり遂げられなかった経験とその理由、また、相反する経験とその理由を続けて発表させる。</p>                                 | <p>実態調査票【問3】の活用<br/>本主題の特性、特に中心資料の内容に応じて、失敗や困難にくじけず最後までやり遂げた経験を紹介したり、経験を数名に発表させたりする。</p> <p>実態調査票【問1】の活用<br/>今後へのより高い目標に関して、回答数の多かった夢や願い、個性的な夢や願いを数名発表させる。</p> <p>実態調査票【問2】の活用<br/>回答数の多かった経験やその原因となった気持ちを中心に、気持ちの矛盾について数名発表させる。</p>   |
| 展開前段 | <p>3 資料を視聴して、よりよい生き方について考える。</p> <p>(1) 登場人物の気持ちやその変化について感想をもつ。</p> <p>(2) 主人公の心の迷いに共感する。</p> <p>(3) 主人公の人間的な心の弱さについて深く考える。</p> <p>(4) 主人公が人間的な心の弱さを乗り越えた言動によって生じた感動を味わう。</p> <p>(5) 主人公が人間的な心の弱さを乗り越えた背景について深く考える。</p> | <p>感想は(2)～(5)で主体的に追究していきたい内容であるという意識を持続させるために簡単に板書しておく。</p> <p>選択に迷う心の両面に共感させる。<br/>(2),(3),(4),(5)の学習活動では、できるだけ自分自身の経験や、その経験に伴った気持ちの変化と関連づけて考えさせる。</p> <p>主人公が大切にしたい望ましい生き方の意義や心構えについて深く考えさせる。</p> | <p>実際の龍門司焼を提示し、説明することで子どもたちに、資料に興味を持たせる。</p> <p>実態調査票【問2】の活用<br/>「わたしはやめませんよ。」と力強く言ったときの軍次は、どんなことを思っていたのだろうか。</p> <p>父のあとを受け継ぐ。<br/>中途半端で終わらせたくない。<br/>龍門司焼をここでやめさせ（途絶えさせ）たくない。<br/>(焼き物...龍門司焼を)こよなく愛していた</p> <p>実態調査票【問3・4・5】の活用<br/>なかなか思ったとおりにいかず、先祖の墓の前でたびたび長い間じっと座り込んでいた軍次はどんなことを考えていたのだろうか。</p>  <p>きれいに焼きあがったどんこ焼を見たとき、軍次はどんなことを思っていたのだろうか。</p> <p>やった、今までやった甲斐があった。<br/>やっと完成した。<br/>よかった。</p> <p>軍次にどんな気持ちがあったから、最後まであきらめずにやり遂げることができたのだろうか。</p> |
| 展開後段 | <p>4 自分自身の生き方について考える。<br/>人間的な心の弱さ<br/>実践経験を支えた感じ方や考え方</p>  | <p>自分の経験と共通する心の弱さや道徳的な感じ方等に気づかせる<br/>最終的には、今後への見通しや自信をもたせる。</p>   | <p>実態調査票【問2・3】の活用<br/>自分自身の経験や気持ちと共通する点について、できるだけ多く発表させる。<br/>実践への自信を深めさせるために、問3は必ず取り上げたい。<br/>少年団等 持久走 行事等に向けての取組など</p>   |
| 終末   | <p>5 学習について、自由に感想をもつ。<br/>「心のノート」の活用<br/>P.14～17を読んで、夢や目標について考える。</p>   | <p>決意を促すのではなく、自然な形で、自由に感想を述べさせる。</p>   | <p>実態調査票【問1・2・3・4・5】の活用<br/>実態調査時と比較しての感じ方等の深まりについて発表させる。</p> <p>「心のノート」<br/>山登りを弱さに共感させながら、楽しく扱う。<br/>自分の夢や目標と関係付けなら、読ませる。</p>   |

【参考資料】実態調査票

## 道 徳 実 態 調 査

6年

【問1】 これからさらにどんな目標を立てて努力してみたいと思いますか。

（視点1） - よりよく生きたいという願い、あこがれ等

【問2】 目標を立てて頑張っていたのに、途中であきらめてしまったことに、どんなことがありますか。

{ 経験 }

できなかった理由

← 気持ちのくいちがい →

《 どのような気持ちがあれば... 》

（視点2） - よりよい生き方を望みながらも、よりよい生き方が選択できなかった経験とその背景にある人間的な心の弱さ

【問3】 失敗や困難にくじけず最後までやり遂げたことに、どんなことがありますか。

{ 経験 }

(理由)

（視点3） - よりよい生き方を選択した経験

【問4】 より高い目標を立てて、最後までやり遂げることが大切なのはなぜですか。

（視点4） - よりよく生きることの大切さについての感じ方や考え方

【問5】 最後までやり遂げるためには、どんなことに気をつければよいと思いますか。

（視点5） - よりよい生き方を選択し実現するために必要な心構え等

実態調査の記入のさせ方

- (ア) 問1「よりよく生きたいという願い、あこがれ等」の記入（視点1）  
 子供たちの成長の様子を数例取り上げて、意欲を高めてから記入させる。  
 今後もっと努力していきたいことや夢・希望などについて記入させる。
- (イ) 問2「よりよい生き方が選択できなかった経験とその理由」の記入（視点2）  
 「経験」の欄には、道徳的な問題場面で実践できなかった経験の中で最も印象に残っていることを記入させる。  
 「実践できなかった理由」の欄には、経験場面において生じた人間的な心の弱さを記入させる。逃避（難しいのでやめたい）等が考えられる。  
 「」の欄には、「実践できなかった理由」と相矛盾する観点を記入させる。その下の枠には、選択した観点からの気持ちを書かせる。
- 【観点と気持ちの記入例】  
 後の気持ち 実戦できなかった経験後に後悔した気持ち  続けておけばよかった 等  
 知っていること 実践すべきであると知的に理解している感じ方や考え方。  自信が付くようになる 等  
 実践できたときの気持ち 人間的な心の弱さを乗り越えて実践できた経験を支えた気持ち  できるようになりたい 等
- (ウ) 問3「よりよい生き方を選択した経験とその理由についての感じ方や考え方等」の記入（視点3・4・5）  
 「経験」の欄には、道徳的な問題場面で、実践できた経験の中で、最も印象に残っていることを記入させる。  
 「理由」の欄には、実践を支えた感じ方や考え方等を記入させる。  自分の力を試したい 等
- (エ) 問4「よりよく生きることの意義についての理解」の記入（視点1・4）  
 観点ごとに次ぎのような内容が考えられる。  
 自分自身に関する観点  あきらめると何事にも挑戦する気持ちがなくなる 等  
 他者への影響に関する観点  成長と一緒に喜んでもらえる 等  
 社会への影響に関する観点  明るく豊かなくらしになる 等
- (オ) 問5「よりよい生き方を選択し実現するために必要な心構えや方法的な工夫」の記入（視点5）  
 心構え  他者のアドバイスに素直に耳を傾ける 等  
 方法的な工夫  小段階の目標を設定する 等